



JSBMR Newsletter No. 2

日本骨代謝学会/The Japanese Society for Bone and Mineral Research

〒560-0082 豊中市新千里東町 1-5-3 千里朝日阪急ビル 13階 (財) 日本学会事務センター大阪事務所内
TEL: 06-6873-2780 FAX: 06-6873-2750 E-mail: jsbmr@bcasj.or.jp http://edpex104.bcasj.or.jp/jsbmr/

第22回日本骨代謝学会学術集会 開催案内

会期: 2004年8月4日(水) ~ 8月7日(土)

会場: 大阪国際会議場

会長: 香川大学医学部整形外科 教授 乗松 尋道

演題募集期間: 2004年3月2日(火) ~ 4月22日(木) 正午
[on line submission] <http://www2.convention.co.jp/jsbmr22/>

企画:

●特別講演 I

「ナノアパタイトの結晶配向性に注目した再生・疾患硬組織へのアプローチ」

中野貴由助教授

(大阪大学大学院工学研究科マテリアル科学専攻)

●特別講演 II

「骨粗鬆症の臨床-骨折の予防から骨格の維持へ」

中村利孝教授 (産業医科大学整形外科)

●国際シンポジウム I

「Important Role of Mineralization」

Chairpersons:

Professor Georges Boivin (Lion, France)

Professor Hiroyuki Kawashima (Niigata, Japan)

●国際シンポジウム II

「Assessment of Osteoporosis」

Chairpersons:

Professor Harry Genant (San Francisco, USA)

Professor Masao Fukunaga (Kurashiki, Japan)

●シンポジウム I

「関節リウマチと変形性関節症における骨破壊の分子メカニズムと治療」

座長: 豊島良太教授 (鳥取大学運動器医学)

吉川秀樹教授 (大阪大学器官制御外科学)

1. 関節リウマチにおける骨破壊の分子メカニズム

田中 栄 (東京大学大学院整形外科)

2. 変形性関節症と自己免疫

加藤智啓 (聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター)

3. 変形性関節症の病態関連遺伝子の解析

川口 浩 (東京大学大学院整形外科)

4. 関節リウマチの骨破壊の病態と治療

萩野 浩 (鳥取大学リハビリテーション部)

5. 関節リウマチ、変形性関節症の骨破壊に対する核酸医薬治療

富田哲也 (大阪大学大学院器官制御外科学)

●シンポジウム II

「ステロイド骨粗鬆症の診断と治療」

座長: 名和田新教授 (九州大学病態制御内科学)

宗圓 聡教授 (近畿大学奈良病院整形外科)

1. ステロイド正骨粗鬆症の疫学・病態・予防治療ガイドライン

鈴木康夫 (東海大学医学部血液・腫瘍・リウマチ内科)

2. 変形性関節症と自己免疫

田中郁子

(国立療養所中部病院長寿医療研究センター生体機能研究部)

3. ステロイド生骨粗鬆症の治療ガイドライン

宗圓 聡 (近畿大学医学部奈良病院整形外科・リウマチ科)

●Plenary session3

●Poster 展示討論 4

●一般講演 (約 130 題)

●イブニングセミナー2

●ランチョンセミナー6

2002～2003年度 日本骨代謝学会 会務報告

(2002年8月～2003年10月末)

I. 学術大会

1st Joint Meeting of IBMS and JSBMR 2003

Chairman 松本 俊夫 教授 (徳島大学)

第21回日本骨代謝学会学術大会

大会長 山口 朗 教授 (長崎大学)

平成15年度の学術大会は、IBMSとの合同で6月3日(火)～7日(土)の5日間にわたり、大阪国際会議場において開催された。また、会期中の6月5日(木)にはJapan Dayが開催され、いずれも盛会裡に終了した。

II. 役員会ならびに総会等

1) 理事会

■2002年度第3回理事会議事録■

日時：2002年12月14日(土) 13:00～15:00

会場：千里クラブ(千里LCビル20階)2003号室

出席者：

清野佳紀(理事長)、山口 朗(副理事長)、板橋 明、高岡邦夫、滝川正春、松本俊夫、米田俊之(理事)、須田立雄、乗松尋道(監事)

同席者：

鈴木不二男(学会誌編集長)、山元理恵(事務局)

議 事：

2002年度第2回理事会議事録の承認(清野理事長)

2002年7月24日に行われた2002年度第2回理事会議事録案が提出され、承認された。

<報告事項>

1. 庶務報告(滝川理事)

滝川理事より、役員数、会員数および会費納入率についての報告があった。

2. 会計報告(松本理事)

松本理事より、2002年10月末現在の会計状況が報告された。歳入・歳出とも、ほぼ予算どおりの状況ではあるが、会費値上げ以外の増収方法(広告収入など)を検討して、安定的な財政を維持できるようにしてはどうかという提案がなされた。

3. 各種委員会報告

1) あり方委員会(高岡理事)

理事会に先だって開催されたあり方委員会の審議の内容が、下記の通り報告された。

①名誉会員の推薦規程について

「日本骨代謝学会諸規定」第1章(第1～3条)に定められている名誉会員の推薦規程について検討を行った結果、特に問題点は認められないことが確認された。ただ、評議員3名による推薦書がなかなか提出されないため、今後は(例えば総会前の)理事会において定期的に議題として取り上げ、候補者について審議することが提案された。また、ある程度の具体的な基準(70歳以上の元理事など)を設けてはどうか、という意見も出された。

②学会会計について

昨年まで単年度の赤字が続いているが、安易に会費の値上げに踏み切ると、会員数が減る恐れがあるため、当面は会費の値上げは行わず、会費以外の部分での増収と、経費の節減について検討すべきであるとの結論に達した。具体的には、JBMMとホームページに広告を募って広告料を得ること、会員連絡にUMINのメーリングリストを利用して、通信費を抑えることが提案された。なお、JBMMの広告については、以前に事務局から広告代理店に募集を依頼した経緯があるが、英文広告を出してくれる企業が見つからなかったため、各理事が手分けして製薬会社に働きかけることになった。

2) 学会誌編集委員会(鈴木編集委員長)

鈴木編集委員長より、JBMM Vol.20の発行状況および投稿状況が報告された。今年度に受け付けた投稿論文はすでに97編となり、昨年度の69編、2000年度の54編より格段に増えていること、また、そのうち海外からの投稿数が44%を占めており、非常に国際的な雑誌になりつつあることが説明された。

しかしその一方で、エディターやレフェリーの負担が増えていることや、論文数増加による超過頁代や通信経費の上昇により、新たな問題が発生していることも指摘された。補助金獲得のために研究成果公開促進費の申請を行ったものの、毎年補助金が得られるとは限らないため、来年度から英文広告を募集するとともに、Springer社との契約を見直すことを決定した。

3) プログラム委員会(山口次期会長)

山口次期会長より、Japan Dayのプログラム委員・選定委員、およびプログラムの選定スケジュールが報告された。Japan Dayの演題もタイトルを英文抄録に掲載することになっているため、英文抄録の印刷に合わせて1月末までにはプログラムを確定させる必要があることが説明された。

4. その他

① 乗松監事より、来年の5月に高松で行われる第1回アジア太平洋骨形態計測学会の演題締切を、2003年1月末まで延期したことが報告された。

② 板橋理事より、2003年1月に骨密度計測に関する英語の講習会を開催し、今後はその受講者を講師として日本語での講習会を軌道に乗せたいとの計画が発表された。

<審議事項>

1. IBMS-JSBMR 2003について(松本理事)

12月初旬に演題登録を締め切った結果、登録演題数は664題となり、そのうち日本からは274題(約40%)の登録があったことが報告された。バルセロナで開催された時よりは少ないものの、メルボルンの時を上回る演題が登録されたため、今後は、この調子で日本語演題の登録キャンペーンを進めていくことが確認された。

その他、サテライトシンポジウムや展示ブースについても、順調に申し込みが集まっていることが報告された。

2. IBMS-JSBMR 2003 Japan Dayについて(山口理事)

学術賞の応募締切を2003年1月31日とし、その案内をホームページ、メール配信、ハガキ(評議員のみ)によって告知することが承認された。

また、次回の第22回学会からは、アブストラクトも英文で提出してもらうようにしてはどうか、という意見が出されたが、演題数が減少することも考えられるため、今回の様子を見ながら、引き続き検討することとした。

3. IBMSに関するアンケートについて(清野理事長)

IBMSからの提案を受け、(日本骨代謝学会の会員であれば、割引価格の会費でIBMSの会員になれるという制度を利用して)IBMSへの入会を希望するかどうかを会員にアンケート調査した結果が報告された。回収率が16.5%(360名)と非常に低かったものの、回答を得た中では53.6%(193名)の会員がIBMSへの入会を希望していることから、今後もIBMS側と協議し、前向きに検討することとなった。

■2002年度第4回理事会議事録■

日時:2003年2月28日(金)17:00~19:00

会場:千里クラブ(千里LCビル20階)2002号室

出席者:

清野佳紀(理事長)、山口 朗(副理事長)、川島博行、高岡邦夫、滝川正春、中村利孝、松本俊夫、米田俊之(理事)、須田立雄、乗松尋道(監事)

同席者:

鈴木不二男(学会誌編集長)、田中弘之(書記)、山元理恵(事務局)

議 事:

2002年度第3回理事会議事録の承認(清野理事長)
2002年12月14日に行われた2002年度第3回理事会およびメール理事会の議事録案が提出され、承認された。

<報告事項>

1. 庶務報告(中村理事)

中村理事より、役員数、会員数および会費納入率についての報告があった。

2. 会計報告(高岡理事)

高岡理事より、2003年1月末現在の会計状況が報告された。

3. IBMS-JSBMR 2003 準備状況報告(松本・山口理事)

松本理事より、1月6日にロサンゼルスでJoint-Meetingのプログラム委員会があり、すべてのオフィシャルプログラムが確定し、展示ブースも完売されたことが報告された。3月14日が事前参加申込の締切であるため、少しでも多くの方に参加していただけるよう積極的な呼びかけが要請された。

また、山口理事より、1月24日にプログラム委員会を開催し、Japan Dayのワークショップの詳細を決定したことが報告された。

4. 各種委員会報告

1) 学術賞・奨励賞選考委員会(山口理事)

理事会に先だって開催された選考委員会における決定事項が下記の通り報告され、理事会においても承認された。

【学術賞受賞者】

<内科系>

田中 良哉 (産業医科大学医学部第一内科)

稲葉 雅章

(大阪市立大学大学院医学研究科代謝内分泌病態内科学)

<外科系>

遠藤 直人

(新潟大学大学院医歯学総合研究科整形外科学分野)

<基礎系>

該当者なし

【奨励賞受賞者】

<基礎機能系>

池田 敏之 (理化学研究所遺伝子多型研究センター)

<基礎形態系>

平田 一成 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

発生分化機能再建学講座)

<外科・歯科臨床系>

松田 浩一 (東京大学医学部整形外科)

<内科臨床系>

山内 美香 (神戸大学大学院医学研究科

内分泌代謝・神経・血液腫瘍内科学)

2) 学会誌編集委員会(鈴木編集委員長)

鈴木編集委員長より、JBMMの発行状況および投稿状況が報告された。現時点で今年中に発行される号に掲載予定の論文がほぼ確定しており、原著論文が毎月8~9編掲載されるペースで、順調に作業が進められていることが説明された。

5. 学会誌掲載論文の転載許諾報告

下記の論文転載依頼について、条件(出典を明らかにすること、原著者の承諾を得ること)を満たしていることから、すでに転載許可を与えたことが報告された。

「原発性骨粗鬆症の診断基準2000年度改訂版」

(日本骨代謝学会雑誌18巻3号)

掲載書籍:『ガイドライン外来診療2003』

株式会社日経メディカル開発

6. その他

① 乗松監事より、5月29~31日に高松で行われる第1回アジア太平洋骨形態計測学会(1st Asia Pacific Congress of Bone Morphometry)のプログラムが配付され、準備状況についての報告があった。また、Proceedingsを学会終了後にJBMMのSupplementとしてまとめる予定であることが報告された。

② 板橋理事より、書面にて、1月12・13日に日本都市センターにて開催されたISCD(International Society of Clinical Densitometry)のトレーニングコースについての報告があった。今後も、定期的な講習会の開催を企画しているため、引き続き日本骨代謝学会による後援、協賛等の協力が求められた。

<審議事項>

1. 日本骨代謝学会学術賞の選考について

昨年度に引き続き、今年度も「該当者なし」とすることが決定された。

2. 第22回日本骨代謝学会プログラム委員の選出について

現時点では、まだ候補者が選出できていないため、乗松次期会長を中心に人選を行い、メールによる理事会において審議、決定することとなった。その際、プログラム委員の中に理事を何名か含め、理事会の方針を反映できる体制をとることが要請された。

3. JBMM の広告募集について

以前より検討されていた JBMM の広告について、1 頁 50,000 円、1/2 頁 25,000 円 (中頁のみ) として具体的に募集を開始することが確認された。すでに打診のあった日本化薬 (株) へ依頼文を送付するとともに、賛助会員へも依頼文を送り、積極的に掲載を募ることとなった。

4. 名誉会員の推薦について

近年、名誉会員の推薦が滞っていたため、過去の理事長・会長経験者を中心に、以下の 16 名をまとめて新たに名誉会員に推薦することが決定された。また、前回の理事会後のメール理事会において決定した黒川清先生の名誉会員推薦についても、確認がなされた。

【新名誉会員】

森田 陸司 先生、山本 吉蔵 先生、吉川 靖三 先生、鳥塚 莞爾 先生、須田 立雄 先生、井上 哲郎 先生、尾形 悦郎 先生、鈴木 不二男 先生、高橋 榮明 先生、折茂 肇 先生、小澤 英浩 先生、杉岡 洋一 先生、森井 浩世 先生、久米川 正好 先生、黒川 高秀 先生、岩田 久 先生、

5. 役員 (理事・監事) の交替について

現在の役員の任期が、6 月の学術集会終了時までとなっているため、5 月に開催する次回理事会 (2003 年度第 1 回理事会) において案を作成し、6 月の学術集会時に開催される評議員会・総会に諮って承認を得る方針が確認された。現役員の約半数が 3 期目を終了して退任するため、次回理事会までに、新役員の候補者について検討しておくことが要請された。

6. IBMS-JSBMR Collective Membership について

IBMS からの提案 (日本骨代謝学会を通じて IBMS へ団体登録した会員に対して、会費の割引が適用される制度) に対して、会費 100 ドル (BONE のハードコピー付き) の会員種別を選択して、学会として実施に向けて準備を進めることが決定された。6 月の Joint-Meeting の際にキャンペーンを行い、多くの希望者を募ることが提案された。また、日本骨代謝学会として IBMS の会員増加に向けてこのような協力をする対価として、IBMS の Board Member に複数の日本骨代謝学会員が選出されることなどを条件とすべきだ、という意見が出された。

7. 日本学術会議の会員候補者・推薦人について

第 19 期日本学術会議の推薦人・推薦予備者については、理事長を中心に調整を進めて、期限までに登録を済ませることが確認された (会員候補者は推薦しない)。

→ 推薦人: 須田 立雄 先生、
推薦人予備者: 片桐 岳信 先生 (後日決定)

*注: 当初、関東在住の板橋理事が候補に挙がったが、後日調整の結果、須田監事を選出することとした。

8. 新評議員の推薦について

下記の 2 名の評議員推薦について説明があり、いずれも

承認された。

・笹野 泰之

(東北大学大学院歯学研究科口腔分子生物学分野)

推薦者: 篠田 壽、高橋直之

・宇田川信之 (松本歯科大学歯学部口腔生化学講座)

推薦者: 小澤英浩、高橋直之

9. その他

山口理事より、初めての Joint-Meeting を日本で開催するにあたり、永年海外において活動され、日本骨代謝学会の国際化に果たされた功績が多である以下の 2 名に対して、特別賞を贈ることが提案され、承認された。

【特別賞受賞者】

米田 俊之 (大阪大学大学院歯学研究科生化学講座)

野田 政樹 (東京医科歯科大学難治疾患研究所)

分子薬理学)

■2003 年度第 1 回理事会議事録■

日時: 2003 年 5 月 16 日 (金) 17:00~19:00

会場: 千里クラブ (千里 LC ビル 20 階) 2003 号室

出席者:

清野佳紀 (理事長)、山口 朗 (副理事長)、川島博行、高岡邦夫、中村利孝、松本俊夫 (理事)、乗松尋道 (監事)

同席者:

田中弘之 (書記)、山元理恵 (事務局)

議 事:

2002 年度第 4 回理事会議事録の承認 (清野理事長)

2003 年 2 月 28 日に行われた 2002 年度第 4 回理事会の議事録案が提出され、承認された。

<報告事項>

1. 庶務報告 (清野理事長) → 中村理事遅刻のため代理報告
清野理事長より、役員数、会員数および会費納入率についての報告があった。なお、前回の理事会において名誉会員に推薦された 13 名が評議員から外れることになったが、引き続き評議員会の開催案内を送付することが確認された (ただし、評議員会での議決権は持たない)。

2. IBMS-JSBMR 2003 準備状況報告 (松本・山口理事)

松本理事より、Joint-Meeting の準備状況に関する報告があった。新型肺炎 SARS の影響により、香港、中国、台湾からのキャンセルが相次いだ他、欧米諸国からの新規申込も止まってしまい、事前参加申込者数が伸び悩んでいることが報告された。国内からの申込がまだ 500 件程度で、例年の学会参加者数と比較しても非常に少ないことから、何とか国内の参加者を増やすように、各理事に対して協力が要請された。

3. 各種委員会報告

1) 第 22 回日本骨代謝学会プログラム委員会 (乗松次期会長)
乗松次期会長より、理事会に先だって開催されたプログラム委員会における審議内容が報告された。8 月 4 日 (水) の 1 日目は、各種委員会・理事会等の会合の他は、イブニングセミナーのみの開催として一般演題の発表時間は設けないこと、2 日目から 4 日目の朝には、基礎・臨床の最先端の発表を 1 会場で行う Plenary session や、How to session を企画していること等が報告された。

2) 学会誌編集委員会(川島理事)→鈴木編集委員代理

川島理事より、JBMMの発行状況および投稿状況が報告された。現在査読中の論文が49編あり、順調に作業が進められていることが説明された。また、日本学術振興会の科学研究費(研究成果公開促進費)への補助金申請が認められ、今年度に300万円の助成を受けられる予定であること、企業からの広告申込み集まりつつあること等が報告された。

3) あり方委員会(高岡理事)

高岡理事より、メールによって各委員の意見交換を行った結果が報告された。これまで、理事の交替の際には、各領域ごとに協議して新理事を決めていたが、理事会全体の意向を反映できるようにすべきであるとの考えから、今後は、各領域ごとに候補者を立てて、最終的な決定は理事会全体で行うべきであるとの提案がなされた。

<審議事項>

1. 理事会の運営方針について(清野理事長)

現在、委員会活動が停滞しているため、それを活性化させるためにも、今後は、各委員会の委員長に理事会への出席を依頼することとなった(ただし、議決権は持たない)。また、新たに下記の2つの委員会を設け、継続的に活動を行うこととなった。

① 国際渉外委員会

IBMS-JSBMR Collective Membershipを始めとする渉外問題を担当する。(委員長:松本理事)

② 臨床プログラム推進委員会

臨床系のプログラムの充実化等を担当する。(委員長:白木正孝氏)

2. 2002年度決算について(高岡理事、乗松監事)

高岡理事より、2002年度の収支決算についての報告があった。収支がほぼ予算どおりに執行された結果、単年度赤字が解消され、わずかながら繰越金を増額することができたとの説明がなされた。また、乗松監事より、5月8日に須田監事とともに会計監査を行い、会計の適正な処理を確認した旨が報告され、審議の結果、2002年度決算が承認された。

3. 2003年度予算について(高岡理事)

高岡理事より、2003年度予算案についての説明がなされた。科学研究費補助金(300万円)、およびJBMM広告収入(150万円)が見込めるため、引き続き単年度赤字の予算を組むことができるが、6月のJoint-Meetingの結果次第では、予定外の支出が必要になる可能性があることが説明された(Joint-Meetingの収支で赤字が出た場合、IBMSと日本骨代謝学会が折半して負担することになっている)。審議の結果、2003年度予算案が承認された。

4. 新役員の選出について

任期満了に伴う役員の交替について、審議がなされた。各領域ごとに推薦した下記の候補者を理事会の満場一致で選出し、評議員会・総会に諮ることとなった。

【新役員候補】

<内科系>

- ・松本 俊夫 } ・大蘭 恵一 (大阪大・医・小児発達医学)
- ・板橋 明 } ・福永 仁夫 (川崎医大・核医学)

・清野 佳紀 → (留任)

・西沢 良記 → (留任)

<外科系>

・中村 利孝 } ・吉川 秀樹 (大阪大・医・整形外科)

・高岡 邦夫 } ・豊島 良太 (鳥取大・医・整形外科)

・太田 博明 → (留任)

・遠藤 直人 → (留任)

<基礎系>

・山口 朗 → ・野田 政樹 (東京医歯大・分子薬理学)

・滝川 正春 → (留任)

・米田 俊之 → (留任)

・川島 博行 → (留任)

5. UMINのメーリングリストについて(事務局)

以前より導入が検討されていたUMINのメーリングリストについて、事務局より概略が説明された。これまでに各会員に対してメールアドレスを登録してもらうように要請したが、未だに15%ほどの登録しか得られていないのが現状であるため、UMIN専用アドレスによって確実に全会員へメールを配信することができる同システムの導入を、具体的に進めることとなった。また、これを理事会での決定事項として、6月の評議員会・総会において報告することが確認された。

6. IBMS-JSBMR Collective Membershipについて(松本理事)

松本理事より、これまでの経緯および問題点等が説明された。IBMSからの強い要望もあり、2004年度からの実施を可能にするためには、6月のJoint-Meetingの際に多くの希望者を募ることが重要であるため、ポスターなども作成して大々的にキャンペーンを行うことが提案された。日本骨代謝学会がIBMS会費を代理徴収する場合、日本円での請求となるため、送金手数料等を含め、100ドル分を12,500円(正会員、学生会員とも同額)に換算して請求することが確認された。なお、為替変動の状況によっては、金額の見直しも理事会で検討することとした。

また、今年の秋にIBMS Board Memberの改選があり、日本からは清野理事長と野田新理事候補が次期Board Memberにノミネートされているため、IBMSにおける日本の地位を確固たるものにするためにも、是非とも2名を代表として送り込むことができるように、日本のIBMS会員に選挙への協力を求めることとなった。

7. 第4回ISMNIからの依頼について(中村理事)

中村理事より、海外の関連学会であるISMNI(International Society for Musculoskeletal and Neuronal Interactions)から学会開催情報をホームページに掲載してほしいという依頼が来ていることが説明された。今後、関連学会情報のホームページへの掲載については、理事会の承認を得なくとも、事務局に申し込んで広報委員会の承認が得られれば、問題のないことが確認された。

8. その他

第24回(2006年開催)学会の会長として、基礎系の川島理事、滝川理事、米田理事が候補として挙げられた。三者で協議の上、次回の理事会において決定することとなった。

■2003年度第2回理事会議事録■

日時: 2003年6月3日(火) 10:00~11:30

会場：大阪国際会議場 10階 主催者控室

出席者：

清野佳紀（理事長）、山口 朗（副理事長）、板橋 明、
太田博明、川島博行、高岡邦夫、滝川正春、西沢良記、
松本俊夫、米田俊之（理事）、須田立雄、乗松尋道（監事）
大藪恵一、豊島良太、野田政樹、吉川秀樹（新理事）

同席者：

鈴木不二男（編集委員長）、白木正孝（臨床プログラム
推進委員長）、田中弘之（書記）、山元理恵（事務局）

欠席者：

中村利孝、遠藤直人（理事）、福永仁夫（新理事）

議 事：

2003年度第1回理事会議事録の承認（清野理事長）
2003年5月16日に行われた2003年度第1回理事会
の議事録案が提出され、承認された。

<報告事項>

1. 新理事候補について（清野理事長）

清野理事長より、前回の理事会において推薦された新理事候補者の紹介があった。新理事候補者の正式な就任は、評議員会・総会による承認を経てからとなるが、理事会として承認し、今回は新理事候補者を加えた新旧合同理事会の形としたことが説明された（新体制で行う初回の理事会は10月に開催の予定）。

2. IBMS-JSBMR 2003の開催状況について（松本・山口理事）

松本理事より、Joint-Meetingの開催状況に関する報告があった。新型肺炎 SARS等の影響もあり、参加者数の減少が懸念されたが、事前申込を締め切った段階で1,000名弱の申し込みがあったため、収支の採算がとれる目処である1,200~1,300名の参加者確保に向けて、さらなる協力が要請された。

なお、IBMSの事務責任者が2カ月前に交替したことから、手違いが生じて英文抄録集が届いておらず、急遽プログラムのコピーを配付するなどの対応をしていることが報告された。

3. 2002年度事業・庶務報告（滝川理事）

滝川理事より、2002年度に開催された学術集会、総会、理事会、評議員会、および各種委員会の報告があった。

4. 2002年度会計決算報告（高岡理事、乗松監事）

高岡理事より、すでに前回の理事会において承認された2002年度の収支決算について報告があった。また、乗松監事からも、5月8日に須田監事とともに会計監査を行ったことが改めて報告された。

→明後日（6月5日）の評議員会・総会に諮る予定。

5. 2003年度予算案報告（高岡理事）

高岡理事より、同じく前回の理事会において承認済みである2003年度の予算案について説明があった。→明後日（6月5日）の評議員会・総会に諮る予定。

6. 各種委員会報告

1) あり方委員会（高岡理事）

前回の理事会において、理事交替時の新理事候補決定方法について提案を行った結果、今回の交替時より、各領域ごとに候補者を推薦して最終決定は理事会全体で行う、という方法が採択されたとの報告があった。

2) 学術賞・奨励賞選考委員会（山口委員長）

山口委員長より、2月28日に行われた学術賞・奨励賞選考委員会において授賞が決定した9名（学術賞3名、奨励賞4名、特別賞2名）に対して、明後日（6月5日）に表彰を行う予定であることが報告された。

3) 第22回日本骨代謝学会プログラム委員会（乗松次期会長）

乗松次期会長より、5月16日に行われたプログラム委員会での検討結果が説明された。また、近くホームページを開設する予定であること、7月に東京で2回目のプログラム委員会を開催する予定であることが報告された。

なお、清野理事長より、以下のような要望があった。
・臨床系のプログラムを充実させるために、臨床プログラム推進委員会の白木委員長の協力を得る。（→白木委員長もプログラム委員の一員であるため、協力して取り組む。）
・ステロイド性骨粗鬆症診断基準委員会、骨粗鬆症患者QOL評価検討委員会の報告を30分ずつ組み入れる。（→ステロイド委員会の報告については、すでにシンポジウムのひとつとして予定している。QOL委員会についても、検討して時間を設ける。）

4) 学会誌編集委員会（鈴木編集委員長）

鈴木編集委員長より、JBMMの発行状況および投稿状況について報告があった。近年、特に投稿数の増加が顕著で、2001年度には69編であった投稿数が、2002年度には倍近い102編に急増し、2003年度も120編ほどになる見込みであることが報告された。それに伴い、査読にかかる郵送コストが上昇しているため、（現在は編集事務費に含まれている）郵送料を実費精算に切り替えてほしい、という要望が出された。また、内科系の査読委員の増員が要請された。

なお、松本理事より、IBMSのAward受賞者にもJBMMへの投稿を依頼してはどうか、との提案がなされた。

5) 骨粗鬆症患者QOL評価検討委員会（太田理事）

太田理事より、現在、JOQOL2000のvalidation studyを作成中であることが報告された。また、60歳以上の更年期障害の調査については、産婦人科（A-TOP研究会）にJOQOL2000の使用を依頼していること等が説明された。（→6月6日に委員会開催予定）

6) ステロイド性骨粗鬆症診断基準検討委員会（西沢理事）

西沢理事より、明後日（6月5日）の11時15分より30分間、委員会の報告を行うことになった旨が報告された。プログラムには掲載されていないため、受付付近に掲示を貼り、なるべく多くの参加者を集められるよう協力が要請された。

7. 第23回日本骨代謝学会について（西沢理事）

西沢理事より、第23回日本骨代謝学会を、2005年7月21日（木）～23日（土）に大阪国際会議場において開催する予定であることが報告された。

8. 学会誌掲載論文の転載許可について

転載許諾の依頼があった3件について、出典を明記し、原著者の許可を得るという条件を満たしていたことから、転載を許可したことが報告された。

9. その他

須田監事より、5月28日に開催された第19期日本学術

会議推薦人会議についての報告があった。病態代謝研連には、糖尿病学会からも有力候補のエントリーがあったが、黒川清先生（日本骨代謝学会名誉会員／日本学術会議副会長）が、推薦人24名中16名の票を得て、第19期会員に選出されたことが報告された。

なお、日本学術会議の総合科学技術会議への改組に伴い、第20期からは従来のような選挙は行わず、すべて推薦によって会員を選出することとし、任期も3年から2年に変更する予定であるとの説明がなされた。

<審議事項>

1. 新委員会について（清野理事長）

清野理事長より、前回の理事会において新設が決定した下記の委員会についての紹介があった。各委員長にメンバー選出を依頼し、次回の理事会において正式に委員を決定することとなった。

- ① 国際渉外委員会・・・[松本委員長] IBMS-JSBMR Collective Membership を始めとする渉外問題を担当する。
- ② 臨床プログラム推進委員会・・・[白木委員長] 臨床系のプログラムの充実化等を担当する。

2. 疫学分野の奨励賞について（清野理事長）

以前よりあり方委員会において検討されていたように、奨励賞の選考領域に「疫学系」を加えることが提案され、承認された。これによって、原則として毎年、「基礎形態系」、「基礎機能系」、「内科臨床系」、「外科・歯科臨床系」、「疫学系」より各1名を奨励賞受賞者として選考することとなった。

なお、今後は、奨励賞の審査希望者に対して、申込段階で審査を希望する「系」を選択してもらうように依頼するとともに、最終選考に残った上位10名からは、履歴書を提出してもらい、審査の参考にすることとなった。

3. 第24回日本骨代謝学会について

第24回（2006年）学会の会長は、川島理事が引き受けることになり、東京での開催を念頭に、日程を調整することとなった。また、基礎系の会長が学会を開催する際に、寄附金を集めることが困難な場合は、学会からの補助金を増額することも検討することになった。

4. 理事長・副理事長の選出について

審議の後に行った投票の結果、清野理事長の留任が決定した（新理事候補者10名による投票のうち、9名が清野理事長の留任を支持、1名は白票）。

また、副理事長には、川島理事の就任が決定した。

5. 監事の交替について

須田監事の後任として、山口副理事長の監事就任が決定した。

■2003年度第3回理事会議事録■

日時：2003年10月31日（金）17:00～19:00

会場：千里クラブ（千里LCビル20階）2002号室

出席者：

清野佳紀（理事長）、川島博行（副理事長）、滝川正春、野田政樹、福永仁夫、吉川秀樹、米田俊之、太田博明、

遠藤直人、西沢良記、大藪恵一（理事）、乗松尋道、山口 朗（監事）

同席者：

鈴木不二男（編集委員長）、高岡邦夫（あり方委員長）、中村利孝（QOL委員長）、松本俊夫（国際渉外委員長）、田中弘之（書記）、和田誠基（臨床プログラム推進委員/白木委員長代理）、山元理恵（事務局）

欠席者：

豊島良太（理事）、名和田新（ステロイド委員長）、白木正孝（臨床プログラム推進委員長）

議 事：

2003年度第2回理事会議事録の承認（清野理事長）

2003年6月3日に行われた2003年度第2回理事会の議事録案が提出され、承認された。

<報告事項>

1. 庶務報告（滝川理事）

滝川理事より、2003年9月末時点の役員数、会員数、および会費納入率が報告された。正会員の退会が多く、会員数の減少傾向が続いているため、退会者の傾向を把握するとともに、何らかの対策を講じる必要があることが提案された。

2. 会計報告（吉川理事）

吉川理事より、2003年9月末時点の会計中間報告についての説明があり、ほぼ問題なく予算が執行されていることが確認された。

3. 各種委員会報告

1) 学会誌編集委員会（鈴木編集委員長）

鈴木編集委員長より、JBMMの発行状況および投稿状況について報告があった。ちょうど21巻6号が発行され、近々会員へ配付できる状況であること、現在までの投稿受付件数が99編に達し、2003年度中には120編ほどになる見込みであること、現在の論文reject率は30%ほどであること等が説明された。

また、2002年度のインパクトファクターが発表され、JBMMは前年度の1.220から1.283に上昇したことが報告された。

2) ステロイド性骨粗鬆症診断基準検討委員会（西沢担当理事）

西沢担当理事より、7月7日に委員会が開催され、その結果等を論文にまとめて発表する予定であることが報告された。

3) 骨粗鬆症患者QOL評価検討委員会（中村委員長）

中村委員長より、8月25日（東京）と10月11日（福岡）に開催された委員会の報告があった。現在、JOQOL2000年度版のvalidityを検討しており、その他にも更年期障害、脊柱変性、膝OA、脊椎骨折と骨粗鬆症との交絡性についても検討を進めていること等が説明された。

4) 広報委員会（遠藤委員長）

遠藤委員長より、UMINのメーリングリストへの会員登録が完了し、先週、新規登録者へIDとパスワードを郵便で通知したことが報告された（ただし、他学会ですでにUMIN IDを取得している会員へは、今回は通知していない）。まだ会員への普及がなされていないため、今後、システムの利用方法を周知するための対策を検討することになった。

5) 臨床プログラム推進委員会(和田委員:白木委員長代理)

和田委員より、8月11日に行われた委員会の報告が行われ、以下のような提案等がなされた。これらについては、引き続き同委員会で検討を進め、具体案を提示してもらうことになった。

- ① 会員の研究に役立つデータベースの構築を検討してはどうか。
- ② 学術集会時に、“meet the professor”のような企画を取り入れてはどうか。
- ③ 学術集会への参加者を増やすために、他学会の機関誌に会告を掲載したり、合同シンポジウム等を企画してはどうか。
- ④ 臨床家の学術集会への参加を促すために、金土日を中心とした運営を検討してはどうか。
- ⑤ 参加者の分野別構成や満足度を知るために、参加者の調査・分析を行ってはどうか。

6) 第22回日本骨代謝学会プログラム委員会(乗松次期会長)

乗松次期会長より、理事会前に開催された委員会の報告があった。12月～1月にシンポジウムのタイトル等も入れた開催案内のポスターを、各大学関連研究所、医療機関等へ配付する予定であることが報告された。この度は、かなり臨床系に重点を置いた特別講演・シンポジウムになっているため、基礎系の先生にも興味を持ってもらえるように、構成やタイトルの付け方などを工夫することが提案された。

7) 国際渉外委員会(松本委員長)

松本委員長より、理事会前に開催された委員会の報告とともに、以下の3点の提案が行われ、討議の結果、承認された。

① IBMS collective membership について

IBMSの理事会に出席して確認したところ、この制度を導入した場合、個人が支払うIBMS年会費は通常の130ドルから100ドルに値引きされるものの、差額の30ドル×人数分は、JSBMR側でスポンサーを見つけて補填する必要があることが判明した。よって、(a)今後、継続的にスポンサーを維持することが困難である、(b)希望者が増えた場合、その度に新たにそれを賄うだけの資金を集めるのが難しい、という理由を添えて、IBMS側に正式に断りを入れることになった。

② ANZBMS との学会の共催について

ANZBMSの会長からの学会共催の申し込みを受け、全体の学術集会を合同で開催することは難しいものの、小規模な会を共催する方向で検討を進めることになった。オーストラリアで開催する場合は、開催費をANZBMS側に負担してもらい代わりに、発表者の渡航費用をJSBMR側で負担することにして、奨励賞の受賞者に賞金の形で補助することが提案された。早急にANZBMS側と調整して、2004年度の奨励賞から適用する場合は、演題募集と併せて案内することになった。

また、2003年6月に開催されたIBMSとのJoint-Meetingの収支が黒字となり、JSBMRにも1,000万円近くが還元されることになったため、その分の収入を国際交流に関する基金として活用し、発表者の旅費等に充てることも提案された。

③ ASBMR council member ballot について

ASBMRのcouncil memberの投票(2004年1月23日締切)が公示され、日本からは米田理事が候補者

としてノミネートされているため、会員に投票を促すよう案内することになった。

4. 第23回日本骨代謝学会について(西沢理事)

第23回学会を、2005年7月21日(木)～23日(土)に大阪国際会議場において開催する予定であることが報告された。理事長より、他学会との共同シンポジウムの開催等を企画してほしいという要請があった。

5. 学会誌掲載論文の転載許可について

転載許諾の依頼があった3件について、条件を満たしていたことから、転載を許可したことが報告された。

<審議事項>

1. 抄録集の取り扱いについて(清野理事長)

以前にメールで各理事から意見を求めていた学会抄録集の取り扱いについては、体裁を基本的に踏襲することを前提に、大会長側で作成することに決定した(印刷所も固定しない)。

2. 新評議員の推薦について(清野理事長)

下記の2名の評議員推薦について説明があり、いずれも承認された。

- ・岡田 洋右(産業医科大学医学部第一内科学講座)
推薦者: 田中良哉、中村利孝
- ・鈴木 敦詞(藤田保健衛生大学医学部内科学内分泌代謝科)
推薦者: 米田正弘、高槻健介

3. ビスフォスフォネートフォーラムについて(清野理事長)

例年、製薬会社主催で行っている同フォーラムを、第22回学会のサテライトシンポジウムとして、8月4日の夕方に開催することが提案され、承認された。

4. 会員への連絡手段について

UMINのメーリングリストを導入して、郵送費のかからない会員への連絡手段を取り入れたが、使用方法が浸透するまでには時間がかかるため、当面の間は年に2回(抄録集発送時、12～1月)Newsletterを発行して郵送することになった。次回は、第22回学会の演題募集や、ASBMRの選挙、UMINの利用方法等の案内を盛り込み、12月下旬～1月上旬の間に発送することになった。

5. その他

野田理事より、学術集会時(夕方～夜間)に、若手の先生が自発的に結成する研究グループに部屋を提供して、自由に討論してもらえるような場を提供してはどうか、という提案がなされた。

2) 評議員会

2003年6月5日(木)、大阪国際会議場において評議員会が開催され、前日の理事会において報告・審議された事項が承認された。

3) 総会

2003年6月5日(木)、大阪国際会議場において総会が開催され、前々日の理事会および当日の評議員会において報告・審議された事項が承認された。

4) 各委員会報告

<学会誌編集委員会>

日 時：2003年6月3日(水) 9:00~10:00
 場 所：大阪国際会議場 12階 1201会議室
 出席者：編集委員長：鈴木不二男；理事長：清野佳紀
 Associate editors：久米川正好、川島博行、
 野田政樹、Editor Emeritus：藤田拓男
 学会誌編集委員：田中 栄、田中弘之
 欠席者：Associate editors：中村利孝、福永仁夫
 学会誌編集委員：江尻貞一、遠藤直人、羽毛田慈之
 名誉編集委員：小澤英浩
 陪席者：編集秘書：五郎大由似子(日本学会事務センター)
 鈴木委員長より資料に基づき説明があり、以下の事項を承認した。

- I. 第9回編集委員会議事録の確認
- II. 報告事項
 1. 発行準備状況
 2. 日本学術振興会 科学研究費(刊行助成金)の交付内定について
 3. JBMMへの英文広告の掲載について
 4. その他
- III. 協議事項
 1. JBMM編集上の今後の問題について
 2. Review執筆依頼について
 3. 査読郵送料について
 4. その他

<第22回日本骨代謝学会プログラム委員会>

日 時：2003年5月16日(金) 16:00~17:00
 場 所：千里クラブ(千里LCビル20階)2003号室
 出席者：乗松 尋道(第22回会長)、山口 朗(第21回会長)、
 白木 正孝、森 諭史、野田 政樹、
 山元 理恵(事務局)
 欠席者：西沢 良記(第23回会長)、福永 仁夫、遠藤 直人、
 米田 俊之

日 時：2003年7月3日(木) 19:30~21:00
 場 所：新高輪プリンスホテル 2階「すみれ」
 出席者：乗松 尋道(第22回会長)、山口 朗(第21回会長)、
 西沢 良記(第23回会長)、福永 仁夫、遠藤 直人、
 森 諭史、野田 政樹、米田 俊之
 欠席者：白木 正孝

日 時：2003年10月31日(金) 16:00~17:00
 場 所：千里クラブ(千里LCビル20階)2003号室
 出席者：乗松 尋道(第22回会長)、山口 朗(第21回会長)、
 西沢 良記(第23回会長)、福永 仁夫、遠藤 直人、
 野田 政樹、米田 俊之、山元 理恵(事務局)
 欠席者：白木 正孝、森 諭史

<骨粗鬆症患者 QOL 評価検討委員会>

日 時：2002年11月21日(金) 7:30~8:45

場 所：ホテル日航東京 1階「蘭の間」
 出席者：高橋 栄明(委員長)、岩谷 力(副委員長)、
 鈴木 隆雄、五來 逸雄、林 泰史、山崎 薫、
 太田 博明、白木 正孝、中村 利孝、
 遠藤 直人(担当理事)
 欠席者：揖場 和子、藤縄 理、白田 久美子

日 時：2003年6月6日(金) 7:30~9:00
 場 所：大阪国際会議場 12階 1201会議室
 出席者：高橋 栄明(委員長)、揖場 和子、五來 逸雄、
 藤縄 理、太田 博明、白木 正孝、中村 利孝、
 遠藤 直人(担当理事)、山元 理恵(事務局)
 欠席者：岩谷 力(副委員長)、鈴木 隆雄、林 泰史、山崎 薫、
 白田 久美子

- I. 報告事項
 1. 委員会活動の現状について
 2. IBMS-JSBMR 2003へのポスター参加について
 3. その他
- II. 審議事項
 1. 委員長交代の交替について
 2. 委員の交替について
 3. 今後の委員会活動について
 4. その他

日 時：2003年8月25日(月) 16:00~18:00
 場 所：八重洲倶楽部(東京)第6会議室
 出席者：中村 利孝(委員長)、鈴木 隆雄(副委員長)、
 揖場 和子、五來 逸雄、太田 博明、白木 正孝、
 楊 鴻生、藤原 佐枝子、山元 理恵(事務局)
 欠席者：藤縄 理、白田 久美子、遠藤 直人(担当理事)

1. 委員会新メンバーの紹介
2. これまでの活動経緯の確認
3. 今後の活動方針について

日 時：2003年10月11日(土) 16:00~18:00
 場 所：アクロス福岡 西ウイング 5階 502会議室
 出席者：中村 利孝(委員長)、揖場 和子、五來 逸雄、
 藤縄 理、太田 博明、白木 正孝、楊 鴻生、
 藤原 佐枝子、山元 理恵(事務局)
 欠席者：鈴木 隆雄(副委員長)、白田 久美子、
 遠藤 直人(担当理事)

1. 前回議事録の確認
2. 2000年度版JOQOLのvalidityについて
3. 役割分担について
4. 今後の方針について

<ステロイド性骨粗鬆症診断基準検討委員会>

日 時：2003年7月7日(月) 15:00~17:00
 場 所：千里クラブ(千里LCビル20階)2003号室
 出席者：名和田 新(委員長)、高岡 邦夫、宗圓 聡、
 三木 隆己、田中 郁子、高柳 涼一、佐川 昭、
 西沢 良記(担当理事)
 欠席者：福永 仁夫(副委員長)、田中 弘之、藤原 佐枝子、
 鈴木 康夫、松本 俊夫

1. ステロイド性骨粗鬆症診断基準のガイドライン作成について
2. その他

<臨床プログラム推進委員会>

日時：2003年8月10日(日) 13:00~15:00

場所：東京国際フォーラム 6階 G606号室

出席者：白木 正孝(委員長)、川島 博行、野田 政樹、
太田 博明、和田 誠基

欠席者：中村 利孝

1. 専門医制度について
2. 骨代謝学会における臨床の位置づけについて
3. 基礎と臨床の対話について
4. 研究の大規模化と長期化について
5. 新規加入者へのアピールについて
6. 学会運営上の改善点について
7. データベースの構築について
8. 学会参加者分析について
9. 臨床に対する学会からの提言について
10. 日本語媒体による情報の発信について
11. 関連研究会との連携について
12. 演題抄録タイトルの英語化について

<国際渉外委員会>

日時：2003年8月1日(金) 13:00~14:00

場所：八重洲倶楽部(東京) 第12会議室

出席者：松本 俊夫(委員長)、大藪 恵一、福本 誠二、
野田 政樹、山口 朗、山元 理恵(事務局)

欠席者：米田 俊之

1. IBMS collective membership への対応
2. ANZBMS との合同学会への対応
3. 学術総会抄録・発表の英文化への対応
4. アジア諸国研究者との交流促進への対応
5. その他日本骨代謝学会の国際化に関わる事項

日時：2003年10月31日(金) 14:00~15:00

場所：千里クラブ(千里LCビル20階) 2004号室

出席者：松本 俊夫(委員長)、大藪 恵一、山口 朗、
米田 俊之、山元 理恵(事務局)

欠席者：野田 政樹、福本 誠二、

1. IBMS collective membership について
2. ANZBMS との学会の共催について
3. ASBMR council member ballot について
4. その他

IBMS 年会費の割引制度の導入中止について

今年の6月に会員の皆様にご案内しておりましたIBMS年会費の割引制度は、申込者が予定の最小人数に達しなかったこと、この制度の施行に必要とされるスポンサーの確保が困難であることなどから、実施を断念せざるを得ないことになりました。すでにお申し込みいただいていた会員の皆様には誠に申し訳ございませんが、IBMSへのご入会につきましては、各自でお手続きくださいますようお願い申し上げます。

ご登録は、下記のIBMSホームページよりお手続きいただけます(<http://www.ibmsonline.org/>)。

また、すでにIBMSにご登録されている会員の皆様につきましても、これまでと同様に各自で会費をお支払いいただきますようお願い申し上げます。

会員の皆様には、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

ASBMR Council Member の投票について

この度、ASBMR(米国骨代謝学会)のCouncil Member候補に日本骨代謝学会理事の米田俊之先生(大阪大学)がノミネートされました。

日本は、米国を除く世界の中で、最多のASBMR会員を擁する国です(ASBMR会員数;日本404名、カナダ180名、イギリス163名...)。よって、日本からCouncil Memberを送り出し、両学会の結びつきを強めることは、日本骨代謝学会の国際的な発展にもつながる重要なこととなります。

米田先生は米国においても著名な方ですので、ASBMR Council Memberとして彼以上の適任者はいません。日本骨代謝学会としても、当学会の代表として米田先生を推薦したいと思います。

10月末にASBMRより会員宛てに、投票依頼のメールが届いたものと思います。つきましては、ASBMR会員の皆様は是非とも米田俊之先生へ投票していただきますようお願い申し上げます。

事務局移転のお知らせ

日本骨代謝学会事務局およびJBMM編集事務局のあります(財)日本学会事務センター大阪事務所が、下記の住所に移転することになりました。今後の各種連絡・問い合わせ、JBMMの投稿につきましては、新連絡先の方へお願い申し上げます。ご不便をおかけいたしますが、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

【新連絡先】(2003年12月22日より)

〒560-0082

大阪府豊中市新千里東町1丁目5番3号

千里朝日阪急ビル13階

(財)日本学会事務センター大阪事務所内

日本骨代謝学会事務局/JBMM編集事務局

TEL: 06-6873-2780(学会事務局)

06-6873-2751(編集事務局)

FAX: 06-6873-2750(学会・編集事務局共通)

E-mail: jsbmr@bcasj.or.jp(学会事務局/変更なし)

Jbmm@bcasj.or.jp(編集事務局/新設)

UMINのメーリングリストについて

今年度の会員総会においてご承認いただきましたように、当学会では UMIN（大学病院医療情報ネットワーク）のシステムを利用して、メーリングリストを作成いたしました。新たに UMIN にご登録させていただいた方へは、10月下旬に ID およびパスワードを郵送いたしました。この度ご連絡が届かなかった方は、すでに他学会において登録済みのはずですので、ご確認ください。

今後は、学会からの情報をメールにてお届けいたしますので、何卒ご活用いただきますようお願い申し上げます。

（ただし、学会誌や抄録集は、これまでどおり印刷物を送付いたします。）

《ご注意》

UMIN のメーリングリストは、各会員に割り当てられた UMIN のメールアドレス宛に、学会事務局よりメールをお送りするシステムになっております。よって、届いたメールを普段お使いのメールアドレス宛に転送する手続きをしていただくことをお勧めいたします。

■転送設定の仕方

まず、下記のページに ID とパスワードを入力してからアクセスして、注意事項をご覧ください。

次に、[手順1]より UMIN 電子メールメニューに入り、「オプション（拡張機能を使う）」から「受信メールの自動転送」を開いて、転送先のアドレスを入力していただければ設定できます。

<http://www.umin.ac.jp/tensou/>

なお、ID もしくはパスワードがお分かりにならない場合は、下記のページより再発行の手続きをしてください。

<http://www.umin.ac.jp/user/>